

《専門教育科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	STAL41001
担当者氏名	岡田 広示	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《テキスト》

『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3）』 広岡義之・津田徹（編著）、ミネルヴァ書房 『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』 古田薫・山下晃一（編著）、ミネルヴァ書房 その他必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

授業中に指示します。

《授業外学習》

配布された資料を読んでレポートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業終了時に提出する学習記録カードをコメントを付して返却する。また、質問や重要なコメントに関しては授業内で取り上げて解説する。

《備考》

必要に応じて、グループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。
	教員養成と教員免許制度について理解している。
	教員の任免と服務について理解している。
	教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
	教員に求められる資質能力と研修について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	10
レポート	20
発表・実技	5
授業内課題	5
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教職とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。	教員採用試験について	60分
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。	良い教員とは	60分
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。	プリントを読んで感想を書く	60分
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。	採用試験合格に向けた計画	45分
5	教員の職務①:教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。	校務分掌について調べる	45分
6	教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。	教員の一日をレポートする	45分
7	教員の職務③:保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいかを考察する。	事例を調べる	45分
8	教員の職務④:アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。	学校評価の結果を分析する	45分
9	教員の人事管理①:服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
10	教員の人事管理②:任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
11	教員の人事管理③:教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。	教員としてのキャリア計画	45分
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。	事例を調べる	45分
15	目指す教員像と課題	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を明らかにする。	どのような教員をめざすか	60分

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	STAL42003
担当者氏名	岡田 広示	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。

《授業外学習》

- ・授業の前までに教科書の当該箇所に通しておく。
- ・授業の要点をまとめたノートを作成する。

《テキスト》

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7』（古田薫、山下晃一編著 ミネルヴァ書房）必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

授業の終わりに提出するリアクションペーパーで理解度を把握し、補足や質問に対する回答を行う。小テーマごとにミニテストを実施する。

《参考図書》

『解説教育六法』三省堂 『図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』坂田 仰他、教育開発研究所

《備考》

- ・必要に応じてグループ学習やディスカッションを実施する。
- ・配布資料は順番に整理し、ファイルに保存しておくこと。
- ・授業でわからなかった点は調べたり、次回の授業時に質問すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。
	教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。
	教育行政の仕組みや学校制度について理解している。
	学校運営について理解している。
	今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	5
授業内課題	
その他()	15
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育行政と教育制度の基礎知識	・教育制度を学ぶ意義を理解する。 ・教育行政、教育制度の基本概念を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
3	憲法教育基本法制①教育に関する規定	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。 ・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
4	憲法教育基本法制②教育基本法	・教育基本法の意義と内容を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
5	学校教育の基本	・学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
6	教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会	・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
7	教育行政のしくみ②教育委員会	・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。 ・教育委員会制度の概要と意義を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
8	教育を受ける権利の保障	・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
9	学校の組織と運営①チーム学校	・学校運営の基本原則とチーム学校の意義を理解する。 ・学校評価について理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
10	学校の組織と運営②学校運営の管理	・学校運営におけるさまざまな管理を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
11	学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規	・学校と保護者・地域に関する法規と制度を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
12	教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領	・学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
13	学校運営と学校安全	・学校安全/学校保健の目的と必要性を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
14	児童生徒に関する法規	・就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
15	児童生徒をめぐる様々な問題	・学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等について理解する。	学校における諸問題についてレ	90分

《専門教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	STTD22032
担当者氏名	大平 曜子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育心理学は教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を修得し、教育における心理学的領域の理解を通して学習活動を支える人間科学的な視点を養うことができる。授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、それぞれの専門領域の教育に応用する方法を修得する。

《授業外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理する。授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通す。専門用語や関心を持った事項は詳しく調べておく。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

レポートはコメントを付して返却する。疑問や質問には個別に回答すると共に、次回の授業で補足説明をして理解を確認する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房 その他、適宜紹介する。

《備考》

グループワークを数回実施する。毎回、授業終了時に「授業の振り返り」を記入し、提出することで参加状況を確認する。授業担当者は、教職経験をもつ実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-3人々の生活理解と課題発見力	発達の概念と発達理解の意義を理解し、教育の観点から各発達段階を理解し課題を見出すことができる。
○ 2-1データを収集・分析し発表する力	学習の概念を理解し、代表的学習理論から学習の考え方をまとめ、発表することができる。
	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて説明できる。
○ 1-4自己課題解決のための自己管理能力	主体的な学習活動を支える学習指導法を専門科目と関連させて理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	10
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、本授業受講の意味を確認する。	次週の授業内容の確認	45分
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。	配布プリントを読み理解する	60分
3	発達の基礎理論 (1)	発達原理、発達の諸理論について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
4	発達の基礎理論 (2)	発達の様相、成熟と発達を理解し、遺伝と環境などの関係因子を考える。	配布プリントを読み理解する	45分
5	発達の基礎理論 (3)	発達の過程における段階的区分を理解し、各段階の発達内容や課題を確認する。	配布プリントを読み理解する	45分
6	学習の基礎理論 (1)	学習の成立、学習の過程、知能と学力について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
7	学習の基礎理論 (2)	学習の理論、学習の概念を理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
8	教育評価 (1)	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解。グループを形成し、評価観点を決定して相互評価を行う。課題を確認し、課題の進め方を理解する。	課題のための資料の収集	90分
9	学習の基礎理論 (3)	記憶の種類と特徴、記憶と学習を理解する。	課題の作成	120分
10	学習の基礎理論 (4)	動機づけとやる気、意欲と学習活動を理解し、動機づけを高める工夫を考える。	課題の作成	120分
11	教育評価 (2)	学力と知能と性格との関係を考える。測定と評価の実際を学ぶ。	配布プリントを読み理解する	45分
12	教育評価 (3)	作成した課題を相互に評価し合う。	配布プリントを読み理解する	45分
13	学習指導法	発見学習、プログラム学習、グループ学習等、授業の最適化について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
14	教師と児童生徒のコミュニケーションと集団の理解	コミュニケーション能力と対人関係、教師が及ぼす影響力、「集団」の促進機能、抑制機能についてわかる。	配布プリントを読み理解する	60分
15	教育における心理学の働きまとめ	教育相談、人間関係について考える。これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明する。	授業内容の整理試験対策	120分

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育論	科目ナンバリング	STAL42010
担当者氏名	杉田 律子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

2007年4月より、特別支援教育の対象は軽度発達障害児まで、また通常学級で学ぶ子どもへの支援まで含まれるようになった。今後は一層、インクルージョンが進むと予測され、すべての学校教員が特別な教育支援を必要とする子どもたちの支援を学ぶ必要がある。この講義では、教員免許取得を目指す者として、最低限必要な障害の理解、特別支援教育の歴史的背景について学ぶとともに、子ども達とその家族への支援について考えることができることを目標とする。

《授業外学習》

事前学習課題を提示し、発表し合うことにより深く学ぶ学修を含む。積極的に課題に取り組むこと。

《テキスト》

杉中拓央ら編「教職をめざす人のための特別支援教育」福村出版

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。必要に応じて小テストや課題を実施し、コメントを返す。オフィスアワーや授業の前後での質問に応じます。筆記テストでは、基本的な知識を問う問題と事例から支援方法を考え総合的な力を確認する

《参考図書》

新版キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦ら編、クリエイツかもがわ）

《備考》

担当者は早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴幼児早期療育教室で勤務歴のある実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教員免許状取得を目指す者として、最低限必要な障害等の概要を理解できる。
	子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解し、障害児の家族への支援について考えることができる。
	外国籍や貧困など特別な教育的ニーズのある子どもへの支援の方法を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	
レポート	10
発表・実技	20
授業内課題	
その他()	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	特別支援の必要な子どもの理解①特別支援教育の理念	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF, 合理的配慮	学習のまとめプリント	45分
2	特別支援の必要な子どもの理解②特別支援教育の制度	特別支援教育の歴史の変遷と特別支援教育の制度、通級指導、自立活動	事前学習プリント	45分
3	視覚障害・聴覚障害の理解	視覚障害と聴覚障害のある子どもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程	学習のまとめプリント	45分
4	視覚・聴覚障害教育の教育課程および支援の方法	視覚障害・聴覚障害のある子どもの教育課程や支援の方法を理解する。	事前学習プリント	45分
5	知的障害、肢体不自由、病弱の理解	知的障害児、肢体不自由児、病弱児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	事前学習プリント	45分
6	知的障害児の教育課程および支援の方法	知的障害児の教育課程や支援の方法	学習のまとめプリント	45分
7	肢体不自由児の教育課程および支援の方法	肢体不自由児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45分
8	病弱児の教育課程および支援の方法	病弱児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45分
9	発達障害の理解	発達障害児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45分
10	発達障害児教育の教育課程および支援の方法	自閉症、ADHD, LDなどの発達障害の特性とその支援方法について理解する。	学習のまとめプリント	45分
11	特別支援の教育課程と個別支援計画	通常学校における、感覚障害のある子どもに対する個別支援、自立支援の方法について理解を深める。	事前学習プリント	45分
12	特別支援の教育課程および支援の方法	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性	事前学習プリント	45分
13	家庭支援と教育相談	保護者に対する支援と教育相談 心理的アプローチ	学習のまとめプリント	45分
14	特別な教育的ニーズのある子どもの把握と支援	その他、特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	事前学習プリント	45分
15	インクルージョンの実現と障害理解教育	合理的配慮を前提にしたクラス運営を実現するため、障害理解教育について理解する	学習のまとめプリント	60分

《専門教育科目》

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	科目ナンバリング	STAL43011
担当者氏名	岡本 洋之	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

特別活動については、その意義、目標、内容、及び指導の在り方を学習する。総合的な学習（探求）の時間については、その意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力の内容を身に付けるとともに、指導と評価の考え方及び実践上の留意点を修得する。

《授業外学習》

特別活動は日本の学校教育の中で特色ある分野であり、また総合的な学習（探求）の時間は時代の要請に応じて近年力が入れている分野である。このことをふまえて、両分野のみならず学校教育界全体の動きを日ごろからニュース等で十分に把握しておくこと。

《テキスト》

中学校学習指導要領（文部科学省）とその解説 高等学校学習指導要領（同）とその解説（※ただし購入する必要はない。必要な分を授業中にプリントして配布する。また文部科学省サイトよりダウンロードすることも可能である）

《参考図書》

中学校学習指導要領の展開 特別活動編／総合的な学習編（明治図書） 高等学校新学習指導要領の展開 特別活動編（同）

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamotoh@hyogo-dai.ac.jp

《備考》

担当者は教員として高等学校での勤務歴のある実務経験者である

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	学校教育における特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己実現や“チーム学校”の視点を持つ。
	学年による特別活動の変化、各教科等との関連、地域住民や他校と連携した対応等に必要知識や素養を体得する。
	総合的な学習/探求の時間での社会・生活課題探究のための指導計画作成/指導法/評価の知識技能を体得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	20
レポート	60
発表・実技	20
授業内課題	
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の到達目標及びテーマ、概要、評価方法	自分の学校生活を振り返る	90分
2	特別活動（1）	学習指導要領における「特別活動」の目標と内容	学習指導要領を読む	90分
3	特別活動（2）	教育課程における「特別活動」の位置付けと各教科等との関連	学習指導要領解説を読む	90分
4	特別活動（3）	学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質	現場が抱える問題を考える	90分
5	特別活動（4）	「特別活動」における評価と改善活動	現場の課題を考える	90分
6	特別活動（5）	集団活動	実践例を調べてくる	90分
7	特別活動（6）	家庭・地域住民や関係機関との連携	先進例を調べてくる	90分
8	特別活動（7） 総合的な学習（探求）の時間（1）	「特別活動」に関する総括 「総合的な学習（探求）の時間」の意義と教育課程における役割	学習指導要領を読む	90分
9	総合的な学習（探求）の時間（2）	学習指導要領における「総合的な学習（探求）の時間」の目標、各学校における目標及び内容の設定	学習指導要領解説を読む	90分
10	総合的な学習（探求）の時間（3）	年間指導計画の作成	実践例を調べてくる	90分
11	総合的な学習（探求）の時間（4）	単元計画の作成	先進例を調べてくる	90分
12	総合的な学習（探求）の時間（5）	探究的な学習の過程と方法	現場が抱える問題を考える	90分
13	総合的な学習（探求）の時間（6）	「総合的な学習（探求）の時間」の評価	現場の課題を考える	90分
14	総合的な学習（探求）の時間（7）	「総合的な学習（探求）の時間」に関する総括	自分の学校生活を振り返る	90分
15	本授業全体の総括	「特別活動」、「総合的な学習（探求）の時間」と「生きる力」	本授業全体を振り返る	90分

《専門教育科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）	科目ナンバリング	STAL42008
担当者氏名	原 志津	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育相談は、幼児、児童、及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童、生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む）を身に付ける。

《授業外学習》

授業で紹介する事柄で、関心のあることには積極的に調べて学んでください。このころについて学ぶための本のリストを初回授業で配布するので、その中から一冊を選んで手書きで5枚の感想文をかいいて、最終授業日に提出してください。

《テキスト》

コンパス「教育相談」 建帛社 住本克彦編著

《学習状況・理解度の確認》

小テストやレポートはコメントをつけて返却する。最終回の「まとめ」は全体的な講評を伝える。

《参考図書》

学習指導要領(文部科学省) 生徒指導提要(文部科学省) 「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」 滝口・田中 創元社

《備考》

教員は、臨床心理士の資格をもつ実務家教員である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	カウンセリングの基本技術を学ぶ。
	自分自身のところに焦点を当てる方法を学ぶ。
	子どもたちのサインに気づき、こころの成長・変化のプロセスを知る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	65
小テスト	
レポート	20
発表・実技	
授業内課題	
その他()	15
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	15回の授業の構成について。「人の話しくく」ということの心得を考える。	配布資料を読んで復習	45分
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について学ぶ。	基本用語の整理	45分
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）をおこなう。	ロールプレイの感想レポート	45分
4	カウンセリングのプロセスについて	カール・ロジャーズの「心理療法の過程概念」を学ぶ。	配布資料の整理	45分
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「過程概念」から発展した「フォーカシング」について学び、実際に体験して学ぶ。	小テストの準備	45分
6	自分自身のテーマを知る	カウンセリングについて的小テスト（30分）、自分自身のテーマを知るための心理テストを体験する。	心理テストの感想レポート	45分
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる「症状」について臨床心理学の考え方を学ぶ。	配布資料の復習・予習	45分
8	軽度発達障害について学ぶ	軽度発達障害について学ぶ	配布資料の復習・予習予習	45分
9	軽度発達障害について学ぶ(2)	軽度発達障害について、運動発達という側面から学ぶ	配布資料の整理	45分
10	いじめの被害者・加害者への理解と対応	学校と教育の場でいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える。	配布資料の復習	45分
11	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ	配布資料の復習	45分
12	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景とその理論について学び、ひとつの事例について知る	映像教材に対する感想レポート	45分
13	不登校の子どもへの理解と対応	どのような態度で子どもたちに向き合えば、不登校の子どもたちの問題解決につながるのか考える。	配布資料の予習と演習の復習	45分
14	教師のメンタルケア・教育と福祉の連携	子どもたちの心のケアと教師のメンタルケア・教育と福祉の連携-ソーシャルワーカーの役割を知る。	配布資料の予習と復習	45分
15	学習のまとめ	自分なりに今後の教育現場で活かせるよう授業の学びをふりかえる。	配布資料の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	教育におけるICT活用の理論と方法			科目ナンバリング	STAL43012
担当者氏名	河野 稔			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					3 年 ・ I 期

《授業の概要》

児童生徒1人1台端末による学習環境が整備され、ICT（情報通信技術）による個別最適な学びと協働的な学びが実現できるようになった。この科目は、主体的・対話的な深い学びの実現のためのICT活用指導力の養成を目指し、ICTを活用した学習活動の意義を理解し、学習場面に応じたICTを活用した授業の設計と準備、児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法、教師や学校を支援するツールとしてのICTの活用について学ぶ。また、各教科等のデジタル教材を作成する演習にも取り組む。

《テキスト》

稲垣忠・佐藤和紀編著（2021）『ICT活用の理論と実践』北大路書房 文部科学省（2020）『教育の情報化に関する手引き-追補版-』

《参考図書》

稲垣忠編著（2022）『教育の方法と技術 Ver. 2（改訂版）』北大路書房 文部科学省『教育の情報化の推進』文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 総則編』等

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	情報社会の進展に伴うICTを活用した教育の意義と教育データを活用した個別最適な学び等の将来像を説明できる。
	学校のICT環境の整備に伴う、校務の情報化や外部人材などの活用、情報セキュリティ対策のあり方を説明できる。
	オンライン教育を含めた学習場面に応じて、ICTを効果的に活用した授業を計画し、デジタル教材を作成できる。
	各教科等の特性に応じて、児童生徒がICTを活用して個別あるいは協働的に学ぶための基本的な指導法を説明できる。

《授業外学習》

予習では、毎回の授業までに、テキストの該当箇所、あるいは、LMS（学習支援システム）で公開されるプリントを事前に通読すること。復習では、毎回の授業のテーマに沿った課題に取り組むこと。デジタル教材の教材企画書の作成、教材の作成とその発表は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループのメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくにデジタル教材の作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	30
授業内課題	40
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	教育の情報化とGIGAスクール構想の現状を確認し、現代社会におけるICTの役割、ICTを活用した教育の意義を概観する。	テキスト第1章を通読	45分
2	教育における視聴覚メディアとコンピュータ活用の展開	視聴覚メディアとコンピュータの学校教育での歴史的展開を理解し、学校でのメディアと技術の活用を議論する。	テキスト第2～3章、第7章を通読	60分
3	教師のICT活用指導力とデジタルコンテンツの活用	デジタル教科書等のデジタルコンテンツの特性と活用のあり方を踏まえて、教師に求められるICT活用指導力を理解する。	テキスト第5章、第8～9章を通読	90分
4	対話的な学びと個別最適な学びを支えるICT	ICTを活用した協働学習の特性や個別最適化された学びの意義を理解し、先端技術を含めた活用のあり方を議論する。	テキスト第4章、第10～11章を通読	60分
5	特別支援教育と幼児教育におけるICT活用	特別支援教育と幼児教育でのICT活用の意義と現状を確認し、実践事例から活用するための留意点を理解する。	テキスト第6章、第13章を通読	60分
6	遠隔授業・オンライン学習と学びの保障	遠隔授業やオンライン学習の特性と活用方法および著作権等の留意点を理解し、ICTによる学びの保障について議論する。	テキスト第12章を通読	60分
7	校務の情報化と教育データの活用	校務支援システム等による校務の情報化を理解し、教育データの種類や活用、情報セキュリティ等の課題を確認する。	テキスト第14章を通読	60分
8	児童生徒によるICT活用	児童生徒によるICT活用の意義と各教科における学習場面を確認し、日常的にICTを活用するための留意点を理解する。	テキスト第15～16章を通読	60分
9	情報活用能力と情報モラル教育	情報活用能力における情報モラル教育の位置づけを確認し、実践事例をもとに授業づくりの考え方を議論する。	テキスト第18章を通読	60分
10	プログラミング教育で育成する資質・能力	プログラミング教育のねらいや位置づけを理解して、具体的な授業方法や授業をする際の留意点を理解する。	テキスト第17章を通読	90分
11	探求を支える情報活用能力	探求の基盤となる資質・能力と情報活用能力の関係を確認し、学校図書館の活用等の実践事例から指導法を理解する。	テキスト第19～20章を通読	90分
12	デジタル教材の作成と活用 (1)教材の企画検討	ICTを活用した教材作成として、グループで作成するデジタル教材を設計して、指導内容を企画書としてまとめる。	教材企画書の作成	120分
13	デジタル教材の作成と活用 (2)教材の作成	実際にICT機器を使用して、グループで設計したデジタル教材を作成する。	デジタル教材の作成	120分
14	デジタル教材の作成と活用 (3)教材の発表と相互評価	グループで作成したデジタル教材を発表し、共有をして相互評価をして、改善点を検討する。	デジタル教材の作成と発表準備	120分
15	全体のまとめとICT活用指導力の向上	教師のICT活用指導力に求められる資質・能力をまとめ、ICT活用指導力の向上とその留意点について考察する。	ICT活用指導力チェックリストの確認	45分

《専門教育科目》

科目名	事前・事後指導	科目ナンバリング	STSW43002
担当者氏名	吉原 恵子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育実習とは、高等学校の実際の教育現場において、観察、参加、実習(研究授業)等を行うことである。本科目は、(1)自発的な創造性と旺盛な研究意欲をもって現場実習に臨むことができるよう十全な準備を行うことを目的とする事前指導、および(2)実習校での経験をふり返るとともに明確化し、意味づけるために行う事後指導により構成される。授業形態として、討議と発表、ロールプレイングや模擬授業などを中心とする。

《授業外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習に加え、日頃から教育問題に関心をもち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規上の側面、学校の社会的な役割など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《テキスト》

使用しない。

《学習状況・理解度の確認》

・レポートは、コメントを付して返却する。 ・オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《備考》

演習(ディスカッション、グループワーク等)という授業形態のため、全回出席することが必須となる。ICT活用双方向型授業。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育実習で行うことからの体系についての情報と知識を理解し、説明できる。
	教育実習を行う上で心がけなければならないマナーや心得等について説明できる。
	教科指導について模擬授業を実施し自己評価できる。
	実習の経験をふまえて、研究授業を行い自己評価できる。
	実習の経験をふまえて、学級経営について問題点を発見し解決できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	30
その他()	40
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育実習の全体	(1)教師(教員)養成と教育実習 (2)教育実習の目標 (3)教育実習の展開 (4)教育実習の心得について説明できる。	授業資料およびノートの整理	45分
2	教育実習の内容(1)	(1)学校経営 (2)学校の組織 (3)生徒の理解事項 (4)教育課程 (5)学習指導について説明できる。	授業資料およびノートの整理	45分
3	教育実習の内容(2)	(1)道徳と特別活動 (2)生徒指導と学級経営 (3)学校の施設と環境 (4)教師としての勤務について説明できる。	授業資料およびノートの整理	45分
4	教育実習の実際	(1)教材研究の実際(2)学習指導の実際(3)学習指導案の事例(4)授業研究の実際 等について説明できる。	学習指導案について調べる	45分
5	教育の方法及び技術	(1)授業の仕組みとはたらき (2)授業を創る (3)その他について説明できる。	教材研究を行う	45分
6	教材研究と指導案づくり	(1)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を説明できる。(講義および演習)。	指導案の作成を行う	90分
7	教材研究と指導案づくり	(2)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を説明できる。(講義および演習)。	指導案の作成を行う	90分
8	教材研究と指導案づくり	(3)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を説明できる。(講義および演習)。	指導案の作成を行う	90分
9	模擬授業(および討議)	実際の授業を想定して、教室にて模擬授業を実施し、講評を行うことができる。	模擬授業のふりかえりを行う	90分
10	「教育実習」の諸注意と準備	教育実習のマナーと心得、授業記録の書き方、教育実習の評価について説明できる。	授業資料およびノートの整理	60分
11	「教育実習」全体のふり返り	実習内容の明確化・体系化を目的として、討議および発表(実習内容の検証・共有化)を行うことができる。	教育実習記録のふり返りを行う	90分
12	事後の教材研究と事後の授業研究	教育実習における授業実践上の経験や学習内容を振り返ることができる。	研究授業の準備を行う	90分
13	研究授業(および討議)	教育実習における授業実践の最終的な総括として研究授業を行うことができる。	研究授業のふり返りを行う	90分
14	学級経営の問題点と課題(発表と討議)	教育実習における学級経営の経験や学習内容を振り返ることができる。	教育実習の総括を行う	90分
15	「教育実習」全体の総括	育実習における事前指導、現場における実習、事後指導の総括を行うことができる。	教育実習の総括を行う	90分

《専門教育科目》

科目名	高等学校教育実習	科目ナンバリング	STSW44003
担当者氏名	吉原 恵子	担当形態	単独
授業方法	実習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	4 年 ・ I 期

《授業の概要》

授業の目標は、教育実習の目的を達成することである。具体的には、事前指導において、教育現場や教員の職務範囲などについて理解するとともに、すでに履修している教職に関わる科目の振り返りによって、実習時に必要な知識や理論を整理する。事後指導においては、教育実習の成果を自己確認するとともに、他の実習生との意見交換、情報交換、討議、発表などにより経験の共有化を図る。

《テキスト》

『教育実習の研究』教師養成研究会(学芸図書, 2001)

《参考図書》

『教育実習の新たな展開』有吉秀樹・長沢憲保(ミネルヴァ書房, 2001), 『福祉教育論』村上尚三郎他(1998、北大路書房), 『福祉教育の理論と実践』阪野貢編著(2000、相川書房)

《授業外学習》

履修期間だけでなく、日常生活および学業生活全体のなかで、教職をめざす者としての自覚を持って知識を習得し行動することが求められる。

《学習状況・理解度の確認》

・レポートや報告資料にコメントを付して返却する。・わからないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

授業案作成および模擬授業に関しては授業外の指導も合わせて行う。ICT活用双方向型授業。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教職に関する科目のふり返しを行い、獲得した知識や技術を現場実習でどのように用いるのか説明できる。
	教職に就くことをめざす者にとって、教育実習がどのような意義をもつか説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	20
授業内課題	0
その他()	50
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育実習全体の理解	教科「教育実習」の目的と方法を記述・説明できる。	実習記録の整理 教材研究	120分
2	教育実習の全体(1)	1)教員養成と教育実習 2)教育実習の目的を記述・説明できる。	実習記録の整理 教材研究	120分
3	教育実習の全体(2)	3)教育実習の展開 4)教育実習の心得を記述・説明できる。	実習記録の整理 教材研究	120分
4	教育実習の内容(1)	1)学校経営 2)学校の組織を記述・説明できる。	実習記録の整理 教材研究	120分
5	教育実習の内容(2)	3)生徒の理解 4)教育課程 5)学習指導を記述・説明できる。	実習記録の整理 教材研究	120分
6	教育実習の実際(1)	1)教材研究の実際 2)学習指導の実際を記述・説明できる。	実習記録の整理 教材研究	120分
7	教育実習の実際(2)	3)学習指導案の事例を記述・説明できる。	実習記録の整理 教材研究	120分
8	教育実習の実際(3)	4)授業研究の実際を記述・説明できる。	実習記録の整理 教材研究	120分
9	教育実習の実際(4)	5)道徳・特別活動・生活指導の実際 6)教育実習の評価を記述・説明できる。	実習記録の整理 教材研究	120分
10	教育の方法及び技術(1)	1)授業の仕組みとはたらきを記述・説明できる。	実習記録の整理 授業準備	120分
11	教育の方法及び技術(2)	2)教育方法および教育技術を記述・説明できる。	実習記録の整理 授業準備	120分
12	教材研究と指導案づくり(1)	1)学習指導要領 2)学習分野を理記述・説明できる。	指導案の作成	120分
13	教材研究と指導案づくり(2)	3)発問や応答 4)時間配分 5)学習目標と評価を記述・説明できる。	指導案の作成	120分
14	模擬授業(1)	1)授業の位置づけ 2)授業の構成要素を記述・説明できる。	模擬授業のふり 返り	120分
15	模擬授業(2)	3)授業内容の難易度 4)授業目標の達成と評価を記述・説明できる。	模擬授業のふり 返り	120分

《専門教育科目》

科目名	教職実践演習（高）			科目ナンバリング	STSW44004
担当者氏名	吉原 恵子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期 4 年 ・ II 期

《授業の概要》

学生は「教職」を教科指導を中心としたイメージで捉えがちである。本演習では、学校現場の視点から見た教員の仕事内容とその職務について学習することを中心とする。これまでの教職課程で得られた知識・技術及び理論を総合的に用いる能力を討議やロールプレイングなどアクティブラーニングにより養うことをめざす。

《授業外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習に加え、日頃から教育問題に関心をもち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめることが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割、世界の動向など、多面的・複眼的に教育（学習）を捉える力を養う努力が求められる。

《テキスト》

『自己成長を目指す教職実践演習』（原田恵理子、森山賢一著）

《学習状況・理解度の確認》

・レポートは、コメントを付して返却する。・わからないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

『教職実践演習ワークブック -ポートフォリオで教師力アップ』（西岡加名恵、川地亜弥子著）

《備考》

教育課題の変化に対応して、ダイバーシティやインクルージョンについてディスカッションを行う。ICT活用双方向型授業。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教職課程において既に修得している専門的な知識・技能および理論と教育実習経験の統合を図ることができる。
	教員としての使命感や責任感を説明できる。
	教科指導のほか生徒指導など教員の多様な職務内容を説明できる。
	教育現場で実践するために必要な諸能力(汎用的技能など)を身につけ、示すことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	30
授業内課題	0
その他()	40
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育実践演習とは何か 教育実習のふり返り	教職実践演習の意義を理解するとともに、教育実習のふり返りを通して教職に就く者として必要な能力・技能について説明できる。	ディスカッションのふり返り	45分
2	学習指導要領の内容理解 学習指導案作成のまとめ	学習指導要領の内容についてふり返り、学習指導案作成の要点や技術についてまとめ、説明できる(事例研究および討議)。	テキストの該当章を読む	90分
3	模擬授業	模擬授業を実施できる(授業実施および討議)。	模擬授業のふり返り	120分
4	道徳教育と特別活動(1)	道徳教育と特別活動の知識をふり返り、多様な事例を検討し実践的課題を検討し、説明できる(事例研究および討議)。	討議のふり返りとまとめ	45分
5	道徳教育と特別活動(2)	道徳教育と特別活動の知識をふり返り、多様な事例を検討し実践的課題を検討し、説明できる(事例研究および討議)。	討議のふり返りとまとめ	45分
6	子どもの発達を理解	思春期・青年期の特性と発達課題を理解し、認知的発達、人間関係の発達について説明できる。	テキストの該当章を読む	90分
7	生徒指導と教育相談(1)	生徒指導および教育相談の概念についてふり返り、一次的援助と二次的援助、三次的援助について説明できる。	テキストの該当章を読む	90分
8	生徒指導と教育相談(2)	一次的援助と二次的援助、三次的援助について事例(不登校、発達障害等)をもとに説明できる(ロールプレイングおよび討議)。	討議のふり返りとまとめ	45分
9	特別支援教育	就学指導のあり方、個別の指導計画の活用、発達検査等について知識の確認 協働による子ども支援等について説明できる。	テキストの該当章を読む	90分
10	学級経営のあり方について(1)	学級担任の役割を理解し、学級経営の進め方、保護者との関わり方などについて、困難事例を中心として説明できる(事例研究および討議)。	討議のふり返りとまとめ	45分
11	学級経営のあり方について(2)	学級担任の役割を理解し、学級経営の進め方、保護者との関わり方などについて、困難事例を中心として説明できる(事例研究および討議)。	討議のふり返りとまとめ	45分
12	教師のコミュニケーション力について	教師の学校組織内の立場について理解し、教員のコミュニケーション力について説明できる(ロールプレイングおよび討議)。	討議のふり返りとまとめ	45分
13	保護者・地域社会への対応について	保護者および地域との連携・協働の重要性について理解し、それに必要なソーシャルスキルについて、事例を検討し説明できる。	資料を予習する	60分
14	教師としての使命感・責任感・倫理観・教育的愛情	現場で求められる教師の資質・能力、教育委員会や社会が求める教師の力量について検討し、自己成長の重要性を説明できる。	テキストの該当章を読む	90分
15	学習のまとめ	学習のふり返りと学習成果の評価を行うことができる。	資料をまとめる	90分